

## 韓国・梨花女子大学校

文教育学部 言語文化学科  
グローバル文化学環 3年  
山下佳乃



留学に憧れを抱いたのは、小学生の頃でした。足掛け 10 年の夢が実現したのが、今回の留学でした。

私の留学の目的は「自分の専門分野を日本の外で学ぶこと」でした。専門分野と言っても、開発や国際協力、国際関係といったいくつかの分野にまたがって興味があり、特に留学前は国際協力の比重を置いて勉強していました。留学先の韓国・梨花女子大学には国際関係学部があり、留学生は学部の授業だけではなく、大学院の授業も受講できることが大きな魅力でした。また英語開講の授業が多く、選択肢の幅が広がったことも、この大学での私の留学生生活を有意義なものにしました。

韓国の大学は春学期（3～6月）と秋学期（9～12月）の二学期制で、日本同様春に年度が始まります。留学生向けの寮（International House）に住む留学生がほとんどで、同じフロアに住む学生とは、よくキッチンで食事を一緒にしたりしました。韓国語の能力はまちまちなので、共通語として英語でコミュニケーションをとることが多かったです。

実を言うと、私は留学前に韓国語の授業を一度も取ったことがなく、渡韓したばかりの頃はかろうじてハングルが読めて、簡単な挨拶ができる程度の語学力でした。前・後期とも、午前中は韓国語の授業を受講しました。授業は朝8時から始まりハードでしたが、クラスメイトとは戦友のような一体感を得ながら仲良くなっていきました。この授業は梨花女子大学の語学堂から派遣された先生が担当するため、質の良い授業を受けることができます。後期には、韓国語で開講される歴史系の授業を受講することもできました。

午後は主に国際関係に関する英語開講の授業を受講しました。授業についていくのには予習復習が欠かせず、課題も山積みで、自分の英語力の足りなさを痛感し続ける日々でした。それでもベストを尽くしていることは伝わったのか、「わからないから教えてほしい」と口にすれば、教授もクラスメイトも快く手を差し伸べてくれました。選択した授業を最後まで乗り切れたのは彼らの助けがあったからこそです。言語の壁にぶつかり、文化の違いに戸惑うこともありました。しかし今思い返してみると、苦しかったことやつらかったことも含めた全てが私の留学を彩ってくれています。「留学に憧れていた自分」は「留学を終えた自分」になりました。留学は想像以上に刺激的で新しい発見に満ちていて、今までで一番密度の濃い 10 ヶ月でした。この留学で何を学んだのか、まとまった言葉はまだ見つかりません。確かなことは、この留学で得た様々な出会いや発見が、私にとってかけがえのない財産だということです。